

科目名	音楽美学	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	2	年次	3

＝授業科目の目標＝

西洋の音楽作品を、文化史の区分ともなる様式(時代様式)を尺度として観ていきます。他の芸術分野や、文化との関連にも留意して、美学的視座で、音楽を探っていきます。「実際に住むことができる建築物も、雨宿りさえ出来ない音楽もなぜ、同じバロック様式なのか」と、言うような疑問にこたえながら、講義を進めます。

＝履修の条件と学習の方法＝

真摯な態度で、音楽を学び享受できる学生諸君、感性、知性の両面から音楽を楽しみたい学生諸君の受講を求めます。

大学生が取るべき受講態度を、必ず実践すること。

高校卒業程度の世界史(特に文化史)の時代区分の知識を前提とします。

ノートは、自分なりの方法で、しっかりとまとめておくこと。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：講義の目標や内容の確認
- 2回 音楽美学とは？
- 3回 時代様式とは？
- 4回 「クアトゥロチェント」とは？
- 5回 「ルネサンス」とは？
- 6回 「バロック」とは？(1)
- 7回 「バロック」とは？(2)
- 8回 「クラシック」とは？
- 9回 「ロマンティック」とは？(1)
- 10回 「ロマンティック」とは？(2)
- 11回 「インプレッショニズム」とは？
- 12回 「象徴」について
- 13回 「パロディー」と「偽作」について
- 14回 まとめ
- 15回 テスト
- 16回 テスト

＝成績評価の方法と評価の基準＝

評価は、周到な予習・復習に基づく能動的な授業への参加がなされているか否か、また、その結果としての習熟度がどうであったかで行ないます。

つまり、テスト・レポートの成績及び平常点、出席状況を勘案して評価します。

テストは、二部構成で実施し、第一部は、講義の最終回に実施し、第二部は、試験期間の所定の日に実施します。この2日間の試験を必ず受験してください。

第一部では、自筆のノート持ち込み可で、ペーパーテストを実施します。

第二部では、ペーパーテストの返却講評と、確認テスト(原則として持ち込み無し)を、行ないます。

具体的実施方法については、講義中に説明します。

=テキスト（必携）=

必要に応じその都度指示する。